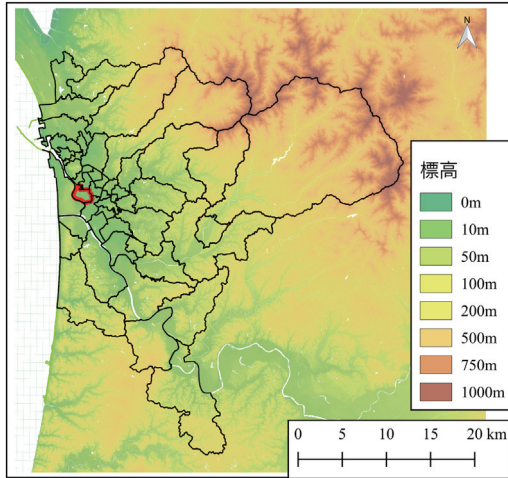


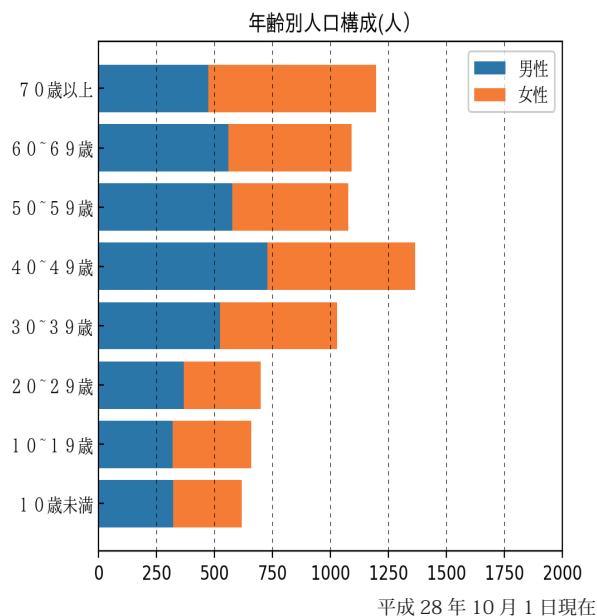
21：川尻小学校区

位置図



1 居住者の現況

人口	7,722 人
世帯数	3,644 世帯
65 歳以上人口	1,779 人
10 歳未満人口	615 人



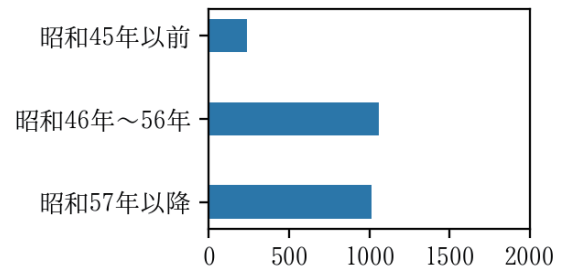
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	2312
非木造建物	798

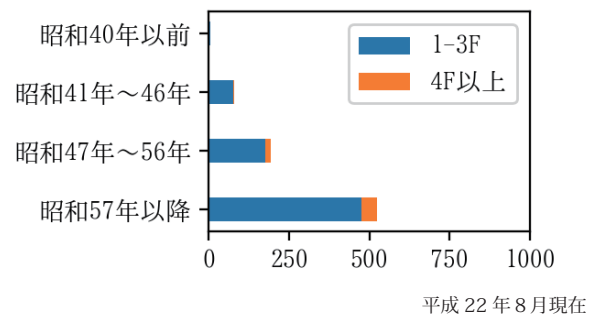
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	1,015
昭和46年～56年	1,059
昭和45年以前	238



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	475	48
昭和47年～56年	175	17
昭和41年～46年	77	1
昭和40年以前	5	0



自然的・社会的基本指標

旧雄物川の右岸に沿った平坦な地形からなり、地盤は沖積層が堆積している。1983 年日本海中部地震の際には、学校区内の旧雄物川に近い地区で液状化が発生した。旧雄物川に面した地域は都市計画で工業地域とされており、工場が多い。人口構成は、30 歳代から 50 歳代の中年世代の比率が高い。65 歳以上の高齢者層は全体の 23% である。非木造建物の比率が高い。昭和 57 年以降の建物は全体の 50% である。

3 自然災害に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 洪水

指定河川	旭川	雄物川	
浸水面積 (%)	28.8	65.1	
最大浸水深 (m)	ランク 2	ランク 4	

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	0	該当箇所なし
土石流危険渓流	0	該当箇所なし
地すべり危険箇所	0	該当箇所なし
なだれ危険箇所	0	該当箇所なし

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	0	該当箇所なし
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震（どこにでも起こりうる直下の地震：M6.9）

平均震度	震度 6 強	
(計測震度)	(6.00)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	51	
液状化危険度ランク	4	
建物全壊率 (%)	5.7	

* 津波（秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合）

浸水面積 (%)	27.3	
最大浸水深 (m)	5.1	

4 災害時要配慮者に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 要支援者関連施設（収容施設のみ）

種別	施設数
高齢者支援	8
婦人幼児支援	0
障がい者等支援	3

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	1
こども園	1
幼稚園	0

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	3

■ 学校等

小学校	1
中学校	0
高等学校	0
大学・短大・高専	0
養護学校等	0

5 防火・防災施設に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 消防関連施設

消火栓数（箇所）	107
防火水槽（箇所）	9
消防車台数（台）	11
消防ポンプ数（台）	1
消防団員数（人）	16

■ 避難所／避難場所（別表参照）

災害種別	施設数
洪水	4
土砂災害	4
地震	4
津波	9
福祉避難所	1
津波避難ビル	8
津波警報サイレン	0

■ 救急・防災関連施設

種別	名称／箇所数
管轄消防署	秋田消防署
管轄警察署	秋田中央警察署
病院・医院数（歯科を除く）	10
最寄りの救急告示病院	市立秋田総合病院
自主防災組織数	16

自然災害時の危険要素

河川の氾濫による浸水に対しては脆弱である。学校区の南東部を除き、旭川の氾濫によって学校区の約 3 割弱、雄物川の氾濫では 7 割弱の範囲で浸水となると想定されている。

土砂災害に対する危険性は指摘されていない。

地震動では、学校区の南西部および国道 13 号線沿線などでその他の地区よりやや揺れにくいとされる。液状化の危険性は高い。河川氾濫による浸水の危険性がある区域では、津波による浸水についても危険性が高く、3m 未満の浸水深となることが想定されている。

防災上の課題と対策

川尻小学校区内では、住居および人口の多くは国道 13 号線より東部に分布している。人口構成はほぼ各年代とも偏りのない構成となっており、災害時には要援護者等の避難にも地域での対応が期待できる。

旧耐震木造建築物と新耐震木造建築物がほぼ同程度となっていることから、地震時にはかなりの住宅被害と避難者の発生が予測されるが、指定避難所の収容可能人員は、人口の約 5%程度にとどまっている。

旧雄物川沿いでは 1983 年日本海中部地震の際に液状化が発生しており、大地震時には液状化による建物被害の発生が懸念される。液状化が懸念される区域では工場等の事業

所が多いことから就業者等が学校区内に滞留することも十分に考えられ、これら非居住者の避難、帰宅支援についても地域を含めた検討がなされることが必要である。 学校区内の北西部で国道 7 号と国道 13 号が合流しており、北東部は秋田市役所、秋田県庁にも近い位置にある。災害時には緊急車両の通行も多くなると考えられることから、災害時の交通確保についても検討しておくことが必要である。	災害種別毎に利用可能な避難施設や近隣学校区の防災関連施設など、やや広域的な防災情報を含めて住民に周知し、住民自らが適切な防災対応をとれるよう防災意識などの喚起とその継続を図ることが必要である。
---	---

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ / 土石流	地震	津波	大規模火災	
山王プレスビル （ 2 階、3 階、屋上の屋外 施設および踊り場等）	x	x	x	x	○	x	248 人
川尻地区 コミュニティセンター	○	○	○	○	x	x	120 人
川尻小学校グラウンド	x	○	○	○	x	x	3,665 人
川尻小学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	337 人
川尻小学校 （校舎 3 階教室と廊下）	x	x	x	x	○	x	920 人
秋田県赤十字血液センター （3 階会議室）	x	x	x	x	○	x	120 人
秋田市営川尻住宅 （1 号棟から 7 号棟まで〔 2 階から 5 階までの階段お よび踊り場〕）	x	x	x	x	○	x	480 人
株式会社ユアテック秋田支 社 （3 階から 5 階までの通路 と室内階段および踊り場）	x	x	x	x	○	x	260 人
総社神社街区公園	x	○	○	○	○	x	津波 8,200 人 津波以外 4,100 人
ドジャース食品館 （屋上駐車場）	x	x	x	x	○	x	1,100 人
フォレストヒルズ山王 （3 階から 4 階までの共通 通路）	x	x	x	x	○	x	140 人
秋田県児童会館 （3 階から 3 階までのホー ルと各室）	x	x	x	x	○	x	681 人

（続く）

福祉避難所

施設	所在地	電話番号	
高齢者介護施設 ぬくもり山王	川尻町字大川反 233 番地の 59	018-824-7000	

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
秋田県赤十字血液センター	川尻町字大川反 233 番地 186	・ 3 階会議室	120 人
株式会社ユアテック 秋田支社	川尻町字大川反 233 番地 9	・ 3 階から 5 階までの通路 ・ 3 階から 5 階までの室内階段および踊り場	260 人
秋田市立川尻小学校	川尻みよし町 8 番 31 号	・ 校舎 3 階教室、廊下	920 人
秋田市営川尻住宅	川尻上野町 1 番	・ 1 号棟～7 号棟 ・ 2 階から 5 階までの階段、踊り場	480 人
ドジャース食品館 屋上駐車場	川尻大川町 8 番 25 号	・ 屋上駐車場	1,100 人
フォレストヒルズ山王	山王沼田町 10 番 33 号	・ 3 階および 4 階共用通路	140 人
秋田県児童会館	山王中島町 1 番 2 号	・ 2 階および 3 階のホールおよび各室	681 人
山王プレスビル	山王六丁目 1 番 13 号	・ 2 階、3 階、屋上の屋外施設 (踊り場を含む)	248 人

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	